説　教　　北浜チャーチ礼拝　　２０２１年最終聖日礼拝

黒田　禎一郎

２０２１年１２月２６日（日）
主　　題：「愛するあなたへの手紙」
　　―手紙の内容―
テキスト：ピリピ人への手紙４章１０－２０節

はじめに

１．今日は、今年最後の聖日礼拝日となりました。　神の恵みにより、この年もここまで守られ、礼拝を守ることが許され感謝しています。皆さんにとって、この一年はどんな年でしたでしょうか。

・楽しかったこと、大きな喜びに包まれたこと、励まされたこと、つらかったこと等。きっといろいろなことがあったと思います。

・個人的に言うことが許されるならば、私は体調を崩したことはありましたが、聖日礼拝に一度も休むことなく、講壇に立たせていただけた幸いを感謝しています。そして何よりも、兄弟姉妹に祈り支えられたことに感謝しています。今年も残り時間はわずかで、２０２１年の幕を閉じるようとしています･･･。

２．ところで、もし仮にイエスが物理的に、この最後の礼拝に参加され、この場に姿を現されたらどうでしょうか。私は何と言うでしょうか・・・？
一番先に出る言葉は何か？と考えます。私の口から出る言葉は；

１）イエスへのお願いの言葉でしょうか？
２）イエスへの不満の言葉でしょうか？
３）イエスへの感謝の言葉でしょうか？

⇒口から出る私の言葉は、私の内面を表します

・一方、イエスは私に何と言われるでしょうか？　　私はこう思います。

「黒田よ！あなたを愛しているよ。」　(I truly love you!)

神のご性格、神の本性は「愛」です。神はその愛で、この私を今年一年間お支えてくださいました。

・私たちはこの一年間、どれだけ神の「愛」を学ぶ者であったでしょうか？自分は、どれだけ神に従順であったでしょうか？自分を振り返ってみようではありませんか。

・使徒パウロは、ピリピ人への手紙４章１１節で、次のように述べました。

「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」今日、私たちはパウロが語る「満ちたりる人生」は、どんな人生か考えてみましょう。　　２点

大切なポイント

１．パウロが置かれた状態

・ピリピ人への手紙１章１３節によれば、「私はキリストのゆえに投獄されている」とあります。すなわち、この書簡は獄中から送られた手紙でした。ところが、私たちはこの書簡の特徴は、「喜び」であることを知っています。

・彼は囚人でしたが、なぜ「喜びの手紙」を送ることができたのでしょうか？彼の置かれた状態は、決して好ましい状況ではありませんでした。彼はこう述べました。「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」（４：11）

・いかがでしょうか。私たちは「満ち足りること」を学んでいるでしょうか。口から出る言葉は、要求、不満、願望、批判などが多いのではないでしょうか。それらの言葉は内側から出て来るものです。そして、人を霊的に貧しくしてしまいます。パウロは「どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」と言いました。

・皆さん。　これは彼のやせ我慢ではありませんでした。言えることは、パウロにとって、試練、苦しみ、痛みは第一の問題ではなかったことです。では、何が一番のことであったでしょうか？

　それは　⇒　イエスの十字架の愛でした

彼は十字架の愛を学びました。それによって試練下でも「満ち足りること」を学びました。ここに愛するあなたへの手紙の内容があります。

・２０１５年私たちも、いろいろな境遇に遭遇しました。理解できないこと、理不尽なこと、とても苦しんだことがありました・・・。そこで、何を学んだでしょうか。置かれた境遇に、負けてしまうことはなかったでしょうか。少し考えれば判明することですが、人間的な力と努力ではすべての境遇に勝つことは難しいことでした。パウロは「どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」と言いました。

・では、パウロがこのように宣言できた背景を、もう少し掘り下げてみましょう。

２．パウロの信仰生活の祝福

1）奥義を学ぶ

・パウロは言いました。

「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」　ピリピ 4:12

・この文章は対比的表現：●貧しさと豊かさ
●飽くことと飢えること
●富むことと乏しいこと

・すなわち奥義は⇒「あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ている」ことです。彼は１３節で、「 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と言いました。これは素晴らしいことです。

① 彼は「満ち足りること」を学びました。

② 彼は「あらゆる境遇に対処する秘訣を心得る」ことを学びました。

・彼は両サイドの経験、すなわち人生の苦難と人生の祝福の経験を学びました。片方だけの経験であると、例えば、豊かさだけを経験したり、富を持つことだけを経験するならば一面的です。逆に貧しさ、飢え、乏しさだけを経験するならば、それも一面的です。一面的な経験は，人間を一面的なパーソナリテイ―（人格）にさせてしまいます。

・では、パウロがこの奥義を学んだ背景には何があったでしょうか？

⇒　そこには、神の訓練がありました

ここに彼が、バランス性を持つ器とされた奥義がありました。

・彼は２コリント１１章で、次のような告白をしています。

11:24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、
11:25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。
11:26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、
11:27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渇き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。
11:28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。

・パウロはユダヤ教神学者としては、エリートコースを歩んでいました。しかしイエスをキリストと信じてからは、大きな苦難を味わう人となりました。彼はその両サイドを学びました。神の奥義を学ぶ訓練でした。

・愛する皆さん。２０２１年、あなたにとっては「試練の年」であったかも知れません。しかし、一つ言えることがあります。

それは　⇒　神が許されたことでした。

すなわち、神の学校のレッスンでした。許容範囲内であったのです。神のレッスンは、痛みを伴いますが、有益であることを忘れてはいけません。その真意は後日判明するものです。信仰は、その真意を先取りすることです。

２）感謝の心を学ぶ

・彼は大変な境遇に置かれたにもかかわらず、感謝の心を学ぶ人でした。試練の中にいた時、エペソの教会の聖徒たちがキリストの福音宣教のために、共に働いてくれたことに深く感謝しました。

4:14 それにしても、あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくれました。

4:15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおり、私が福音を宣べ伝え始めたころ、マケドニヤを離れて行ったときには、私の働きのために、物をやり取りしてくれた教会は、あなたがたのほかには一つもありませんでした。

4:16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは一度ならず二度までも物を送って、私の乏しさを補ってくれました。

4:17 私は贈り物を求めているのではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。

4:18 私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。

・ パウロは自分で、天幕づくりの仕事をしながら伝道しました。しかし一方では、ピリピの教会から愛の贈り物を感謝して受けとりました（１５節）。つまり、

① 彼は「規則」（ルール）を持っていた

・どういうルールかと言えば、自分が失格者とならないためのルールでした。１コリント９：２７

「私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです」

彼は自分に厳しいルールを持っていました。失格者とならないためで

した・・・・。

② 彼には「感謝の心」があった

・ここに、主にある兄弟姉妹との横の関係を学ぶことができます。同じ「キリストのからだ」につながれる器官として、役割を認識していました。伝道者が神に支えられることは、神が教えておられることです。具体的には、神は多くの場合、人をお用いになられます。彼はピリピの聖徒たちの愛を、感謝の心で受けとめました。

・私たちもこの年を振る返り、「感謝の心を持つ」ことを、どれほど学んだでしょうか。なぜなら全てのことは、神にあって相働き益となるからです。

3）信仰を学ぶ

「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます。」ピリピ 4:19

・パウロ「私の神」(my God)、すなわち神を所有格で言いました。これはパウロと神との関係を示します。彼には「私の神は必要をすべて満たしてくださる」という信仰がありました。

① 神は豊かな富を持つお方であると信じていました

② 神は必要を満たすお方であると信じていました

⇒　それが、彼の信仰でした

・では、彼はこの信仰をどこで入手したのでしょうか？

⇒　それは主と共に歩む生活を通してです

―「ＱＴ」（静思の時間）と「実践」（適用）－

彼は一度にして、信仰の人、感謝の心をもつ人、奥義を心得る人になったわけではありません。主と共に歩む毎日の生活を通してでした。

今年、私たちは神の個人レッスンを受けました。何を学んだでしょうか。

・旧約聖書にヨブという人物が登場します。彼は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていました。東の人々の中で、一番の富豪でした。彼には、7 人の息子と 3 人の娘が生まれました。羊 7 千頭、らくだ 3 千頭、牛 5 百くびき、雌ろば 5 百頭、それに非常に多くのしもべを持っていました。毎日、宴会を開いていました。

・ところがある時突然、子どもたち全員が亡くなりました。不幸と悲しみの出来事が次から次に起こりました。やがて彼の財産もなくなりました。

悲劇の真っただ中に、落ち入りました。最愛の妻からは、「それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。」（ヨブ1：9)、と言われました。

・ヨブは非常な災難、不幸に出会いました。それが約 42 年間も続きました。私たちには理解できません。

しかしその大試練の中でも、ヨブは神に誠実に生きました。結果、神は彼の晩年をどのように導かれたでしょうか。

42:10 ヨブがその友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元どおりにし、さらに主はヨブの所有物をすべて二倍に増された。

42:12 主はヨブの前の半生よりあとの半生をもっと祝福された。それで彼は羊一万四千頭、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。

42:16 この後ヨブは百四十年生き、自分の子と、その子の子たちを四代目まで見た。

＊ ヨブの特徴は、次の 3 点ではないでしょうか

1．ヨブは神を信頼した（側近の妻から批判されたが）　ヨブ 2:9

2．ヨブは自分の罪を悔い改めた（ちりと灰の中で）ヨブ 42:6

3．ヨブは神に従順でした　　ヨブ 1:22

ま　と　め

主　　題：「愛するあなたへの手紙」

―手紙の内容－

・私たちは今日、２０２１年を振り返っています。どれほど感謝の心を持って、歩いた一年であったでしょうか。不満の心（つぶやき）が浮上したことはなかったでしょうか。神はそんな私たちに、御子イエス・キリストをお与えくださいました。私たちを愛してくださっているからです。

・今ここに、イエスが私の前に物理的に姿を現してくださるならば、「黒田よ！あなたを愛している」と言われるに違いありません。使徒パウロは獄中から、ピリピの教会へ書簡を送りました。それは愛の手紙でした。そして、こう述べました。「私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」

（ピリピ４：１１ｂ）

・パウロはすばらしい告白をしました。なぜ、そう言えたでしょうか。

１．神の奥義を学びました

２．神に感謝の心を学びました

３．　神への信仰を学びました

＊パウロは、これらのことをキリスト・イエスにある生活で学びました。

・そして彼は結論として、神に栄光をお返ししました。
「 どうか、私たちの父なる神に御栄えがとこしえにありますように。
アーメン。」(4:20)

・２０２１年、いかがでしょうか？私たちも同じように、神に栄光をお返ししようではありませんか。